

見てて面白いっていうのが一番大きいかも。そういう人達と一緒に学べる環境っていうのが、すごく恵まれたこと

語り手 西山 碧（高校十五期生 京都市立芸術大学美術学部）

聞き手 大原 妃

*

中高生時代

―高校生の時にあった行事とかで一番思い出に残ってることを聞きたいです。

行事で？高三の時の文化祭かなー。私らの時ちょうどコロナが丸かぶり。高二の時に文化祭実行委員長してたんですけど、それも夏休みが終わる二週間前くらいに開催できないことになったちゃって。で、不完全燃焼のまま高三になって、多分ちよつとだけコロナがマシになったんかなその時に。で、高三の時の文化祭は、全学年で例年通りにできるよってなあって、準備して。それが一番思い出には残ってます。

―高三の文化祭は劇とかもやられたと思うんですけど、何をやられましたか。

クラス劇？

―はい、クラス劇。

私はもうずっと生徒会やってたから、全然クラスに入れてなくて（笑）。クラス劇の方はもうほとんどみんなに任せて、ナレーションだけやってたって感じかな。だからどっちかっていうとクラスの思い出っ

ていうよりは、生徒会の運営側での思い出の方が大きかったかもしれないです。

―運営は主に何を担当されましたか。

えっと、高三の文化祭やから、私はたしか当日の会場のアナウンスをメインで担当してたかな。その時ちょうど受験勉強も同時進行でやってたから仕事量としては少なくしてもらってました。あ、あと動画作ってた。あの、まとめ動画みたいなんを作って閉会式で流しました。それくらいかな。

*

進路選択

―もらった紙に芸術大学に行かれたと書いてたと思うんですけど、立守ってそのまま大学に上がれるじゃないですか。けど、上がらずに芸大を選ばれた理由を……。

理由は、大きく分けると二つあって。一つ目は、単純に美術が好きやから。美術は好きやけど、趣味程度？みたいな感じで絵を描いてたんですけど。高校の時に美術部でずつといて作品描いてて。美術部で年一回総合文化祭っていう、ちよつと大きい、体育系というインターハイみたいなそういうのがあって。で、その全国に出展するための枠が滋賀県で五つしかなくて、それをずつと狙ってて。高一の時に描いた作品は、結構惜しいところで行けなくて、高二の時にリベンジした作品が全国大会に出展することになって。それでその時に目覚めたというか（笑）。やつぱり絵描くの好きやなっていうふうに、美術の道もありかもっていうふうに思ったのが一つ。

もう一つが、もともとは映像学部に進学しようと思って。まず映像学部に行こうと思った理由が、シンプルに映像を作るのが好きやったか

ら。情報をまとめて人に伝えるための動画はもちろんやし、ノートまとめとかも好きやったし、プレゼンのスライド作ったりとかそういうのが得意な分野やつて。まあ、自分が興味のある分野で立命館大学内やつたらもうやっぱ映像学部しかないかなっていう風に思ってた。それがまだ外部受験っていう選択肢が頭の中になかったとき。

その後、高二でさっきいった絵のことがあって、そのあたりからちよつとだけ芸大に行く選択肢が出てきて。映像学部に行っても多分映像のことしかできひんと思ってた。幅広い分野で美術に興味があったからこそ、大学進学の段階で映像っていう特定の専門分野だけに絞っちゃうのはちよつともったい無い気がして。芸大のデザイン科に行けば幅広い意味で人に伝えるっていう、デザインの勉強ができると思ったから、芸大に行こうっていうふうに思いました。

ーなるほど。来年度から立命館大学にもデザイン・アート学部ができるんですけど、進学するか迷ってた。もし碧さんが高三の時にデザイン・アート学部があったら行っていましたか。

えー。その立命館の新しくできるデザイン・アート学部が具体的にどういうカリキュラムなのかをあんまり知らないんですけど、なんか理論的な話なんかな？

ーなんかまだあんまり決まっていなくて。でも今決まってるのが、衣笠にできるので、京都のまちづくりとかインテリアデザインとか空間デザインとかもできて、あとはデザインマネジメントとか経営の要素も入るし、情報の要素も入るから理系と文系の間みたいな感じっぽいんです。ものを作るのが好きとかやったらデザイン・アートでできるって先生が言ってた。

あーそうなんや。私やったらどうしてたやろ。私やったら……んー。

もし私が今高三やとしたらどうするかな。難しいな。

でも芸大の強みって実際に手が動くところ、絵が描ける人が集まるところやと思ってた。何かを否定するってわけじゃないけど、頭の中であつたのかこういうふうなプロセスでものを作っていききたいっていうのがあつても、結局それをうまく人に伝える、ビジュアルで伝えるっていうことができなかったら意味がないというか。自分が伝えられる範囲内で結局完結してしまうことになるから、根本的に人に伝えるっていう力を育てる面では芸大かな、私やったら。

でもやっぱ受験リスクはあるし、立命館の強みはやっぱそのまま進学できるから高三の時間を受験勉強の時間に削らずになんか課外活動とか探究活動とかそういうのに力を入れるところやと思うから。んーそうやなあ。だから立命でもいいのかも(笑)。

ー芸大の入試方法は。

私が行ってる京都市立芸大は国公立やから受験科目に共通テストが五教科六科目あつて、で、その点数プラス実技試験でもさらに三項目あつて、鉛筆で描くデッサンっていうやつと、あと絵の具使って表現する色彩っていうやつと、あと立体構成っていうのがあつて、その全部の合計点数で勝負するっていう感じ。

ー何か習われてたんですか。

画塾。受験用の絵の塾みたいなんには高一の冬頃から行き始めてました。ずっと描いてるうちに高二の夏に芸大受験しよって決めて、そこからグアーツて。

ー美術部以外に生徒会副会長もやられてたと思うんですけど、私が人前で何か発表するっていうのがあんまり得意じゃなくて、でも副会長っていつも全校の前で話したりZoomとかで話したりするじゃないですか。

それってもともと得意だったんですか？

いや、もう中学時代まで遡ってしまうと、全然おとなしく真面目にしていた。最初は。けど中二の時に当時の学年主任の先生に「HR委員をやらへんか」っていうふうに言われてやってみて、そのあたりからなんか徐々に「あ、意外といけるかも」ってやってみてから気づいたっていう感じ。そこからオープンキャンパスのナビゲーターとかでお客さんの前で話すことが増えたりとか、クラスのまとめる係みたいなことをする機会がよくあつて。だから徐々に慣れたって感じかな。

元々は全然。多分あの時の学年主任の先生の誘いがなかったらやってないと思う（笑）。でも、中身に自信を持つ、自分で自分のやったことに対して自信を持つようにすると、むしろみんなちゃんと聞けようぐらいのマインドでやることが多かったかもしれないです（笑）。

ー今年から学校の校則が変わって、生徒会がいるんなことしてくれてたんですけど、先生とか大人を説得するっていうか動かすってめっちゃ難しいと思うんですけど、それってなんか注意してたことってありますか。

そうやなー。私の代の頃は、とにかく何回も直接喋った。別に口で言うのは簡単やけど、実際にアポ取りに行つて喋りに行つて、「こういうふうに思ってるんです。先生はどういう意図で、この校則を書いてるんですか」っていう、そもそもその校則ができた元みたいなのを直接聞きに行つて。こういう理由だよっていうふうに戻ってきたら、またそれを元に考えて。こっちからも提案して。先生との間で決まったら、じゃあ今度はそれを全校生にちゃんとした情報で伝えるっていうのが大事になってくるから、そのプロセスを丁寧にやっていく感じかな。

口で言うのは簡単やけど、信頼を得るためには、ちゃんとしたプロセス

スを重ねていかないといけないなと思うし、もちろん生徒にアンケートも取ったし。こういう風に変まりましたよっていうのをただ単にお知らせするんじゃないくて、絶対に関心を持つてもらえるような方法を考えたりとか。私たちの時にやってたのは、ユーチューバー（笑）。

ーあー知ってます。見たことがあります。

知ってる？（笑）。

ーはい（笑）。

ユーチューブ始めて。多分生徒たちからすると生徒会ってこんなことやってるんやつてのが初めて分かった年やと思う。それまで生徒会長って誰だっけ、みんな何してんの、みたいな。生徒会三役が何してんのかわからへんみたいな状況やったのをまず変えた。みんなに関心を持つてもらえるようにした。

ープレゼンとかも場慣れしていたらいいか思いますか。

思います。結局発表の機会って大学に行っても無限にあるし、社会に出てもあるし。なんか場慣れしといたほうがいいっていうか、立守にいたらどうせやることになるよ。勝手に慣れへんかなあ。

私は六年間で勝手に慣れたっていうイメージやから無理して慣れる必要もないけど、でも実際大学行つた時に思ったよりも周りの人がプレゼンできひんことに気づくと思う。多分クラスに一人か二人はきつとプレゼン上手い子っていると思うやん。意外とそういう人がおらんくなる。絶対各クラスにいるやん立守なら。それがあんまりおらん、っていう印象かな、外に出ると。むしろそういう上手い人のプレゼンを今から聞けるのって結構得じゃない？そんな、なかなかない機会やと思うし。ー私の友達もめっちゃ上手いです。プレゼン。クラスの中でもめっちゃ。そういう学生時代にいい刺激をもらった人とかいますか。

一緒に三役やってた生徒会長（笑）。あの人はねー詐欺師（笑）。口が上手いし。あ、いい意味でね。いい意味で詐欺師（笑）。ほんまに口が上手いし、喋り方に自信が溢れすぎて勝手に聞いてしまう。自然と耳を傾けてしまう感じのオーラ。カリスマ性があつて。

あれは特殊な例やからそこまでしようと思つてできるわけではないけど。あの人の発表を近くで見続けられたのは自分にとっては面白かったし、良かったなっていうふうに思う。逆にむしろパクれるところはパクればいいと思う。自信を持つて話してる人の話つて、中身が仮に薄かったとしても聞こうと思うやん。なんかぼそぼそ自信なさに喋つて、めっちゃ中身にはいいのに自信なさに喋つてると、めっちゃ自信あつて、聞いて欲しそうに喋つてると、多分そっちに目を行っちゃうと思う。だから形から入るつて結構大事なのかもしれない。もちろん中身も伴つてないとあかんけど、まずは自信持つて喋るつていうのの大事やと思うな。

*

現在から将来

ー将来も芸術関係に進むんですか。

まあそうやね（笑）。デザインつていつても、今いるデザイン科が結構幅広くデザインについて習う学科で、そういう教育方針やねん。一般的にデザインつて聞くと、例えばポスターとか広告とかそういう作り物やと思いがちやけど、多分これからの時代に必要なのつて作る力だけじゃなくつて、課題発見してそれに対するソリューションを考えてそこをどう形にするか。そこで表現力が問われる。そのプロセス全部が大事になつてくると思つて、だからそのプロセスごとデザインできる人になりたいかな。いつも作るだけじゃなくて。

作るだけができる人なんていっぱいいるし。逆に考えるだけが得意な人なんてそれこそ一般大学にいっぱいいるし。だから両方できる人になれば最強じゃね？つていう。ふふふ。めちゃくちゃ単純な考え方やけど（笑）。私は全部できるようになりたいです（笑）。

ー芸大に行く人の主な就職先つて決まったりするんですか。

多いのは広告業界、エンタメ業界、あとはやっぱりメーカーのデザイナー。例えばやけどプロダクト系。文房具とか家具メーカーとかかな。出版社とかもいる。でもデザインつてどの分野でも結構求められるから。机作るにも椅子作るにもその空間を作るにも、スマホ作るにも、もう全てデザインつて必要になつてくるから割と職種はないようである。どこにでもいける感じ。

ーデザイン系つて結構職業が限られると思つてました。

全然そんなことないと思う（笑）。むしろ強みにはできると思うな。

*

立守の特徴

ーそうなんです。なんか外部受験つていろんなところから人が集まると思うんですけど、立守でこれやつてよかったつて思ったことありましたか？

やつぱり多分探究活動とかは生きてきてるなつていうふうにしてつて。大学の課題の中でも、多分課題を出してきてる先生たちの意図はきつとこの課題に対する問題解決的な提示を要求してきているように思うやけど、実際それができてる生徒つてあんまりいないようにみんなの作品を見て思つて。なんか自分の作りたいものを作つてる感が強いつていうか。でもまあ課題やからそれでもいいやけど、実際に社会に出た時に自分が作りたいものを作つてのつてそれただのエゴやし、結局

なんの意味にもならへんし、「そこじゃないよな」とは思うから、それに気づくことができるのも多分立守で六年間そういう考え方を無意識のうちに叩き込まれてたというか（笑）。洗脳されてたような気がするし。そういうところが強みになるんかなって思ってます。私にはすごい立守の環境は合ってたかな。

*

大学休学の今

—大学ではどんなことをしてるんですか。

一回生、二回生の間はデザインの基礎的な力をつけましようみたいな期間やったから、何を学んでるっていうよりかはとにかく幅広く建築からプロダクトからビジュアルデザインからの基礎となるための、ひたすら手を動かす期間でした。むしろ三回生からが個人個人テーマに沿って動ける場面やから。ちよつと私、その中間で今、休学しちゃってるから（笑）難しいなあ。何を学んでるかな。そのデザインを将来にどう活かすかの選択肢を広げてるっていうイメージかも。

—踏み込んでいいかわかんないんですけど、休学した理由って……。

休学した理由は、シンプルに時間が欲しかった（笑）。っていうのがあって。なんか三回生になったら就職活動とかを始めないといけなくなってくるんやけど。二回生が終わって、次、就職活動を始めるってなった時に自分の中でまだ明確にやりたいことが見つかってない状態、納得がいてない状態でふわふわしたまま就職活動を始めるのが嫌で。それならもう、一年休学しちゃって自分の可能性を最大限に広げた状態、選肢をたくさん並べた状態で、じっくり時間をかけて道を絞って、決めてから動き出したいなっていうのがあって。それで休学したかな。

あとは、もともと大学に浪人していく可能性の方が高かったんですけど

ど、なんか現役で受かっちゃって。だから、まあ一年浮いたしそれぐらいいいかなーって（笑）。

*

これから

—やりたいこととか道を決めるのに今やってることって何がありますか。

今は、やることが色々あるんやけど、まず一つ目が、スキルアップ。Adobeのクリエイティブ系のソフトを大学生から使い始めてるから、そのスキルアップの時間いっぱい作ったりとか、スキルをつけるための時間にあてているのが一つ。二つ目が一回生の春からお世話になっているインター先の会社があつて。その会社で、休学のうちの前半の半年間修行させてもらってます。デザイン作ったりイラスト描いたり。そういう実際に社会で仕事をする経験を積んでいます。三つ目が、九月から留学に行こうと思ってる。私、英語もともとめっちゃ嫌いで、受験のために勉強したみたいな感じやって。大学入ってから全然やってなかったらそりゃ忘れるし。

けど、デザインのこと調べてたりすると、日本に流通してる情報だけやと乗り遅れそうっていうか（笑）。多分、視野を世界にまで広げたほうがきつと本場に新しいトレンドが入ってくると思うし。

あとはやっぱりテストで点を取るための英語よりも、話せる英語力って絶対必要になってくると思うから、まあ、やるなら今のうちやなつて。他には、外部の学生、立命館行ってる学生と一緒に学生団体でなんか面白い事してみたりとか。まじでいろんなことやりながら人脈広げます。

—えーすごい。そうなんですな。あ、もうすぐ時間なので最後に一つ。

後輩に向けて、これからやつといたほうが良いよみたいなことがありますか。

何かあってもいい？

—はい、全然。

一つは、大学生になってから高校生見るとほんまにキラキラしてるなっていうふうに思っ。一年間を通して同じ教室にいるクラスがあるのも、高校までやし、そのクラスのみんなでなんか協力して行事、体育祭文化祭とか、そういう行事をやる機会っていうのも、最後やから、それを大事にしてほしいっていうのがあるかな。それが一つ。行事とか部活とかみんなでやるのを全力でほんまに今しかできひんことやから全力で楽しんでほしい。

もう一つは、遊ぶのもいいけど、やっぱり大学に行ってからは何を勉強するかってほんまに自分次第だから、その大学でやりたいことを見つけるためにも、高校のうちにちゃんといろんな分野に手を出して勉強して、自分の中での興味を絞っておくというか、自分の興味があるものを見つけておくっていうのが二つ目。

あとはなんやろうな。私が立守に行って良かったなと思うのは、立守は面白い人多いやん。多分普通の公立高校にはいなさそう。自分の好きなこと、得意なことに熱中してる人とか、喋りが上手い人、勉強が得意な人とか面白い人がいっぱいいるから、そういう人たちと同じ環境で三年間一緒に過ごせるっていうのは自分の視野を広げるっていう意味でもすごくいいと思うし、見てて楽しい。参考にもなるし。そうやな、見てて面白いっていうのが一番大きいかも。そういう人達と一緒に学べる環境っていうのが、すごく恵まれたことやから、それを大事にしてほしいなっ。思います。それぐらいかな。

—ありがとうございました。

【感想】

私自身が進路に悩んでいるタイミングで聞き書きの活動として先輩のお話を聞けて、将来を考える時間を改めて作ることができた。三年前、立守は私が入学する前だから、当時の生徒会がどう動き、どのような学校かを知ることができ、非常に興味深かった。今回教えていただいたことを思い出しながら残りの学校生活を過ごし、高校卒業後も高校生活で得たことを活かして日々を過ごしていきたい。



左：語り手 西山 碧さん
右：聞き手 大原 妃